

研究協力のお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

尿道憩室に対する手術療法の成績と下部尿路症状の術前後変化に関する検討

1. 研究の対象および研究対象期間

2019年4月1日から2026年3月31日に昭和医科大学横浜市北部病院女性骨盤底センターで尿道憩室に対する手術を行った患者さん

2. 研究目的・方法

尿道憩室とは尿道の内側の壁が弱くなって袋状にふくらみができて、炎症や感染を起こしてしまう病気です。排尿などのたびに強い痛みを起したり、頻尿、尿漏れ、性交時の痛みなど、様々な下部尿路の症状が起こります。成人女性の1~6%と非常にまれな病気とされていますが、医療者の間でもあまり認知されていないために診断が遅れたり、正しく診断されていない患者さんもいることが推測されています。当センターでは尿道憩室の患者さんを積極的に受け入れており、他施設に比べ多くの尿道憩室の治療を行ってきました。そこで尿道憩室に対する手術療法が排尿に関する症状をどれくらい改善したか、手術後に新たに生じた排尿症状や合併症がないか、あった場合にはどのように治療されたか、について検討します。治療成績をより向上させることと、合併症の予防法や治療法を確立することを目的とし、ひいてはこの病気の周知にも役立つと考えています。

3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2031年 12月 31日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

基本情報（年齢、体重、既往歴、合併症、妊娠分娩歴、月経歴、職業）

血液検査・尿検査、術前・術後の内診・超音波所見

術前後の質問票（OABSS, ICIQ-SF, IPSS, KING 他）

手術成績（術式、麻酔法、時間、出血量など）

術中術後合併症の診断と治療経過

5. 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

6. 研究組織

研究責任者

昭和医科大学横浜市北部病院女性骨盤底センター 野村由紀子

研究分担者

昭和医科大学横浜市北部病院女性骨盤底センター 岡田義之

昭和医科大学横浜市北部病院女性骨盤底センター 青山茉莉香

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学横浜市北部病院女性骨盤底センター 氏名：野村由紀子

住所：神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1 電話番号：045-949-7575